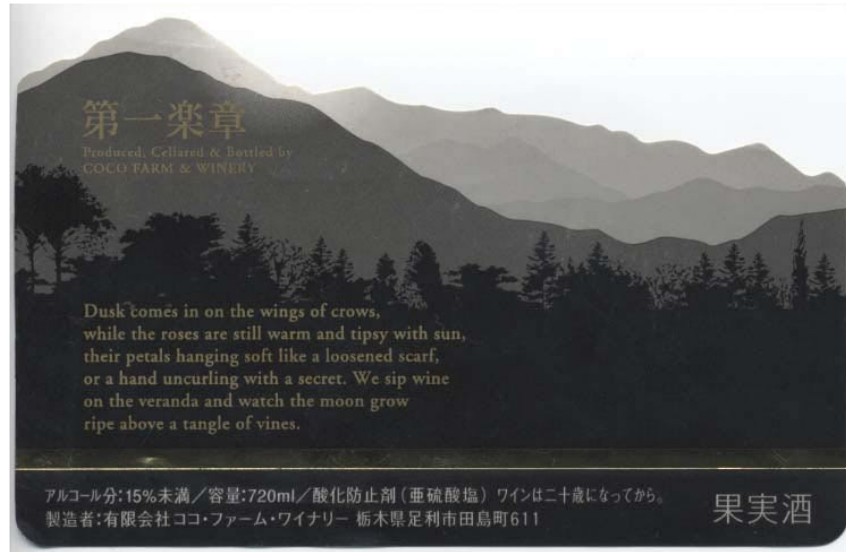


2001 ココ・ファーム・ワイナリー 第一楽章



国産ブドウ品種の新たな顔、第一楽章は20世紀初頭の著名なブドウ栽培家川上善兵衛によって発展した二つの品種による赤ワインです。真に個性豊かなワインとするため、伝統的なヨーロッパの技術を取り入れ、綿密な土地選び、非常な手間をかける農作業、そして手作業によるワイン造りを行っています。

原料となるマスカット・ベリーAとブラック・クイーンは、私たちのワイナリーを見下ろす山頂に位置する畑「開拓園」の痩せた土壌で育てられます。ワインには強い花の香り、スパイス、果実など品種の特徴が十分に表れています。

また、2001年はその製造過程において清澄・フィルター処理を一切行っておりません。熟した果実の味わいと複雑さを持つ自然のままのワインに仕上げるために、人為的に手を加えることを最小限に抑えて瓶詰めしました。その結果、ワインはやや曇ったままで熟成とともに澱が沈殿するでしょう。開栓する数時間前にボトルを立て、澱を沈めておくことをお勧めいたします。澱が舞わぬようグラスにゆっくりと注ぎ、ワインをお楽しみください。

テクニカル・データ

畑と品種:	栃木県足利市田島町(開拓園)、栃木県佐野市赤見町(赤見) マスカット・ベリーA、ブラック・クイーン、小公子		
収穫:	2001/10/21~11/7	収穫時の糖度: 20.9°Brix (平均)	
発酵:	除梗し軽く破碎して、小型のタンクへ移す。20%ほどセニエした後、1日3回のピジューアージュをおこないながら、徐々にマストを温めてゆく。2,3日すると天然酵母による発酵が始まる。発酵は高めの温度ですすみ、最高で33°Cにもなり、残糖がなくなるまで続く。注意深くピジューアージュをおこないながら、十分な色素と風味を抽出する。おおよそ2週間醸した後、マストを搾り、ワインを皮と種から分ける。その後、小樽内でMLFを続ける。		
熟成:	フランス産オークの古樽と新樽(40%)の併用で12ヶ月熟成。 澱引き後、清澄・濾過処理なしで瓶詰。		
瓶詰:	瓶詰日: 2003/2/6	本数: 2,636本	
	アルコール: 11.40%	酸度: 0.69 gm./100 ml.	残糖: 0.19%

このワインについて

テイस्टィング・コメント:	2001年の第一楽章は、天候にも恵まれ、素晴らしい出来のワインとなった。色調は深く紫がかかったルビー色。香りはまだ閉じているが気品があり、ラズベリー、ブラック・チェリー、さらにスパイスや腐葉土、葉巻の複雑な香りが感じられる。味わいはミディアム・ボディで果実の凝縮感があり、酸味も持続し、タンニン分は細かく心地良い。余韻は長く僅かな苦みを伴う。
料理との相性:	しっかりとした料理: 鴨のフルーツソース、ビーフ・シチュー、鴨鍋、イノシシ鍋、強い風味のチーズ(ウォッシュタイプ)
飲み頃:	現在から5~6年後: 現在でも楽しめるが、適切な熟成により複雑味と柔らかさを増し、まろやかで素晴らしいまとまりのあるワインに成長するであろう。